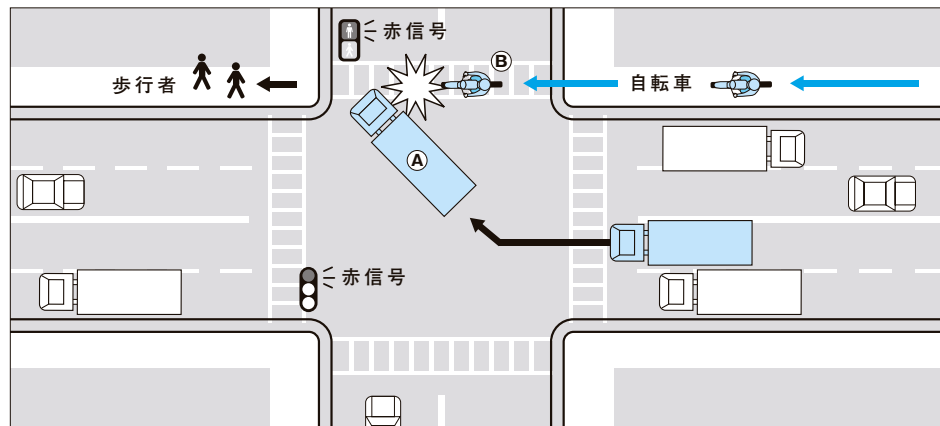


職場における交通安全指導

交差点を右折する際、横断中の自転車に衝突



■事故の概要

●発生状況

日 時：平成21年2月某日 午後4時30分頃
天 候：晴れ

●道路状況

片側二車線の交通頻繁な県道

●事故の当事者

運転者A（大型貨物車）：28歳、男性
被害者B（自転車）：17歳、男性

●被害状況

A：前部右側バンパー破損
B：左足首骨折（全治3か月）

事故状況

Aは、入社後3年で業務経験は浅いが、最近では大型貨物車での搬送業務を任されていた。

日頃の仕事振りは積極的で交通事故は皆無であったが、時々気持ちが先走りするのか慎重さを欠いた作業ミスが見られた。

当日、Aは一人で遠距離の建築現場へ鋼材を搬送する業務に当たり、無事に搬送業務を終えて、交通頻繁な片側二車線の県道を帰社する途中であった。

Aは第2通行帯を走行し、会社近くの交差点で青信号に従い右折のため、前方で同じく右折の合図を出していた軽貨物自動車の後方で一旦停止した。

右折のタイミングを見計らっている時、進行方向の歩道上には2、3人の歩行者を認めていた。

そのうちAは、対向車の車両間隔が開いたのを

見て「右折可能」と判断したが、前方の軽貨物車が一瞬躊躇するようにやや遅れて発進したため右折のタイミングを失し、前車に続いて右折することは見合わせた。

間もなく信号が黄に変わり対向車が途切れたため、交差点中央付近から発進した。信号は赤に変わった直後であった。

右折に際し、Aは先に渡り終えた歩行者以外に「横断歩行者はいない」と思い込んでいたため、交差点から早く出ようと加速しながら進路前方だけに注意を向け横断歩道を横切ろうとしたところ、右方から何か接近する気配を感じたため慌ててブレーキを踏んだが間に合わず、横断歩道を渡ってきた自転車Bに衝突・転倒させ怪我を負わせてしまった。

この事故を振り返ってみると、事故の直接の原因は、Aが右折の際「横断者はいない」と思い込み、周囲に無警戒のまま進行し、Bに対する安全確認を怠ったことである。

一方、Bについても寒さのため信号待ちを避けようと、歩行者用信号は既に赤に変わっていたのに、委細かまわず横断歩道に進入したことが原因といえる。

安全指導

① 「慣れ」に注意

Aは運転経験は浅いほうであったが、大型免許取得後に入社しており、最近では大型車による搬

送業務を任されていました。

普段の業務や運転にも慣れ、これまで無事故であったことから、仕事に自信を持つ一方で過信も芽生え始めていたと思われます。慣れや過信による気持ちの変化が、「油断」を招き事故に繋がってしまいました。

誰しも入社当初は、運転に緊張感を持ち、危険を認識し、「ひょっとすると…かもしれない」というように慎重に安全確認を行います。だんだん慣れてくると、本人が気付かないうちに、「まさか…ないだろう」というように気持ちに甘さが出てしまい、安易に安全確認を怠るミスを招きがちです。

また、事故は会社近くのいつも通り慣れた自分の生活圏内ともいえる交差点で起きました。「自分の庭」という感覚から危険意識や警戒感が薄れ、やはり安全確認に甘さが出てしまいました。

いつもの交差点ほど警戒心が乏しくなり、「油断」という落とし穴に陥りがちです。

運転に慣れてきた時は、「油断」という心理状態に陥り易いことをしっかり自覚し、安全確認を徹底するよう心掛けましょう。

② 危険を予測する運転

Aは交差点を右折する際、進行方向の歩道上に歩行者2、3人を認めたほかに人影が見当たらなかったことから、「他に横断者はいない」と思い込んでしまい、横断歩道周辺への注意を怠ってしまいました。

交差点で右左折する際は、安易な思い込みから安全確認を怠り、重大事故が発生することがよくあります。一旦思い込んでしまうと警戒心がなくなり、危険から意識が離れてしまいます。道路の状況は日々刻々と変化しているため、運転する際は常に周囲の道路状況に眼を配り、次に起きる状況の変化を予測し、その変化に瞬時に対応できる運転行動を取ることが大切です。

Aが運転する大型貨物車は、車両自体に見えない死角が多いばかりでなく、その周辺にも他の車両や建物の影など、眼で捉えられない危険な死角がいっぱいです。しかも交差点を通行する際、運転者が安全確認に使える時間は、一般的に精々1秒程度といわれており、迅速、正確な判断力が欠かせません。

Aの思い込みは、「見えないことは『存在しない』ことではない。」という“運転の鉄則”を見失っていました。

運転者は、見えない危険をいち早く読み取る“先を見通す眼”すなわち「危険を予測する運転」を励行することが大切です。

一方に注意すると他方は不注意に…



③ 「防衛運転」の実践

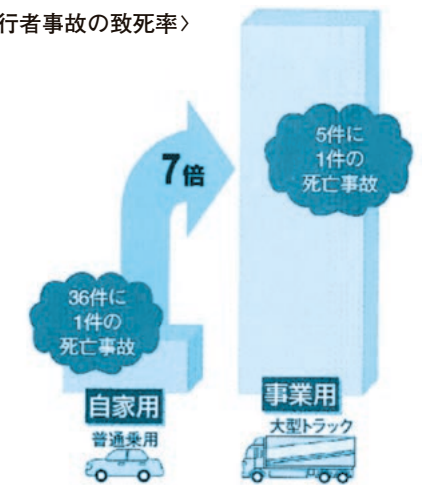
対自転車事故は、自転車側の通行方法に違反が認められるケースが多くあります。

運転者は、自転車利用者の交通ルール遵守を安易に期待せず、むしろ自転車は交通ルールを無視し、安全確認もせずに交差点等に飛び出すことが多いと認識し、注意することが大切です。

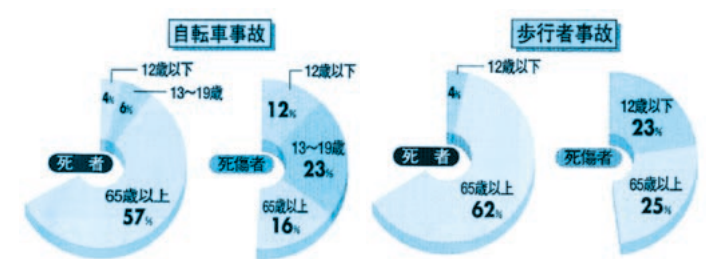
特に近年は、歩道通行の自転車が増え、車に対する警戒感を欠いたまま、安全確認もしないで歩道から交差点や車道に飛び出し事故に遭うケースが増えています。

運転者は、自転車・歩行者・二輪車等の交通弱者に対して十分な目配り・気配りを行い、率先して事故防止を図る「防衛運転」を心掛けましょう。

〈歩行者事故の致死率〉



〈自転車・歩行者事故の死傷者の年齢層別発生状況〉



〈交通事故総合分析センターの分析結果（抜粋）〉